



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年9月11日

上場会社名 武蔵野興業株式会社
 コード番号 9635 URL <http://www.musashino-k.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 義勝
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 山崎 雄司
 四半期報告書提出予定日 2020年9月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3352-1439

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	260	35.1	28	27.9	36	26.8	14	
2020年3月期第1四半期	401	29.9	22	87.6	28	84.2	20	84.2

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 13百万円 (%) 2020年3月期第1四半期 20百万円 (84.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	14.01	
2020年3月期第1四半期	19.58	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	6,282	3,687	58.7	3,523.56
2020年3月期	6,247	3,701	59.2	3,586.83

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 3,687百万円 2020年3月期 3,701百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	560	28.8	20	33.3	30	16.7	25		23.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2021年3月期の通期連結業績予想につきましては、将来における新型コロナウイルス感染症による連結業績への影響を現段階において合理的に算定することが困難であることから、引き続き未定としております。今後、通期連結業績予想の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	1,050,000 株	2020年3月期	1,050,000 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	3,551 株	2020年3月期	3,551 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	1,046,449 株	2020年3月期1Q	1,046,454 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、GDP成長率は戦後最大の減少率を記録するなど、景気の展望は依然として大変厳しい状況が続いております。このような状況のもと、当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、映画事業部門におきましては、当社経営の映画館「武蔵野館」「シネマカリテ」は一定期間臨時休業し、その後も座席数を隔席にするなどの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し営業再開したものの、集客数は大きく減少し、セグメント損失を計上いたしました。自動車教習事業部門におきましても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一定期間臨時休業するなどの要因から教習生獲得数は減少し、前年同期に比べ売上高は減少いたしました。一方、不動産事業部門におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による入居テナントの経営環境への影響が懸念されたものの、業績は概ね当初の見込み通り推移いたしました。以上のことから、全体として売上高は2億6千万円（前年同期比35.1%減）、営業利益は2千8百万円（前年同期比27.9%増）、経常利益は3千6百万円（前年同期比26.8%増）となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う政府の方針や自治体による要請を受け、当社映画館および自動車教習所を臨時休業したことによる特別損失4千3百万円を計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純損失は1千4百万円（前年同期は2千万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメント情報ごとの業績の状況は以下の通りであります。

(映画事業部門)

映画興行事業におきましては、「武蔵野館」では、『コリーニ事件』『その手に触れるまで』、また「シネマカリテ」では、『21世紀の資本』『SKIN/スキン』等を上映いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一定期間、両館を臨時休業し、その後、販売座席数を隔席（通常営業時の2分の1）として営業再開したものの、営業成績に与える影響は大きく、映画興行収入は大きく減少いたしました。映画配給関連事業につきましては、地方都市を中心に、当社連結子会社による自社買付配給作品の香港映画『淪落の人』の配給を継続いたしました。部門全体の売上高は2千1百万円（前年同期比85.0%減）、セグメント損失は1千5百万円（前年同期は7百万円のセグメント損失）となりました。

(不動産事業部門)

賃貸部門におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による経営環境の変化により、入居テナントの財政状態等への影響が懸念されましたが、当四半期におきましては、前年同期並みの収益を確保することが出来ました。販売部門におきましては、引き続き不動産市況の情報収集に止まり、具体的な営業活動の成果を得るに至りませんでした。その結果、部門全体の売上高は1億4千2百万円（前年同期比0.3%減）、セグメント利益は8千7百万円（前年同期比2.7%増）となりました。

(自動車教習事業部門)

卒業時期を迎えた高校生を中心とした運転免許取得需要も一段落し、自動二輪や大型自動車、特殊自動車免許等、普通自動車免許以外の教習メニューのPRにも力を入れて幅広く営業活動を行っておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一定期間、臨時休業したことにより売上高は減少いたしました。その結果、部門全体の売上高は8千4百万円（前年同期比9.8%減）、セグメント利益は2千9百万円（前年同期比18.2%増）となりました。

(商事事業部門)

当該事業部門の主軸である東京都目黒区において経営委託している飲食店は、政府の緊急事態宣言を受け、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一定期間休業し、その後も客席数や営業時間等の制限を行いながら営業を再開したものの、消費マインドは回復に至らず、営業成績は前年同期を下回りました。その結果、部門全体の売上高は1千万円（前年同期比44.6%減）、セグメント利益は1百万円（前年同期比11.5%減）となりました。

(その他)

主としてマクミラン・アリスの著作権手数料や自販機手数料であります。部門全体の売上高は0百万円（前年同期比56.4%減）、セグメント損失は0百万円（前年同期は0百万円のセグメント利益）となりました。

※ スポーツ・レジャー事業部門は営業中止中であります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、減価償却費の計上で有形固定資産が減少したものの、金融機関からの借入により現金及び預金が増加し、前連結会計年度末に比べ3千4百万円増の62億8千2百万円となりました。

(負債)

負債合計は、買掛金等流動負債の減少はあったものの、金融機関からの借入金により長期借入金が増加し、前連結会計年度末に比べ4千8百万円増の25億9千4百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が減少し、前連結会計年度末に比べ1千3百万円減の36億8千7百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大が当社事業の経営環境に大きな影響を及ぼし、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上いたしました。現時点におきましても同感染症が収束する兆しは見えず、映画事業をはじめとした基幹事業の収益による安定的な内部留保の積み上げには、さらなる時間を要するものと考えております。

そのため今後も、新型コロナウイルス感染症が事業に与える影響を把握し、経費の節減や資金の確保に十分に配慮しながら、あらためて、営業利益による自己資本の充実と将来の利益配分に向けて、映画の自社買付配給等、映画に関連した新たなビジネス・コンテンツの開発も継続して行うことで映画事業の収益力改善を目指すとともに、不動産事業、自動車教習事業のより一層の安定化を進め、グループの収益力の強化と復配に向け、経営の全力を傾注してまいります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響が将来の当社の事業に及ぼす影響を見極めるには、当面の時間が必要であることから、2021年3月期の通期連結業績予想につきましては引き続き未定とさせていただき、見通しが立ち次第、あらためてお知らせいたします。

なお、2021年3月期第2四半期連結累計期間につきましては、特別損失「臨時休業による損失」の発生に加え、映画事業における映画館の販売座席数を従前の1/2（隔席）とする営業を引き続き継続していることもあり、映画事業の営業損失が予想されることから、現時点におきまして、売上高560百万円、営業利益20百万円、経常利益30百万円、四半期純損失25百万円を見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	677,401	758,833
売掛金	31,232	13,409
たな卸資産	2,749	2,070
その他	60,895	48,086
貸倒引当金	△377	△211
流動資産合計	771,901	822,188
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	802,938	786,766
機械装置及び運搬具(純額)	15,613	14,125
工具、器具及び備品(純額)	21,495	21,489
土地	3,904,167	3,904,167
リース資産(純額)	33,171	29,029
有形固定資産合計	4,777,387	4,755,578
無形固定資産		
借地権	67,260	67,260
その他	12,077	14,687
無形固定資産合計	79,337	81,947
投資その他の資産		
投資有価証券	460,150	464,379
繰延税金資産	27,644	26,246
敷金及び保証金	88,646	88,646
その他	46,216	47,176
貸倒引当金	△4,035	△4,035
投資その他の資産合計	618,621	622,412
固定資産合計	5,475,346	5,459,938
資産合計	6,247,247	6,282,126

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	57,890	36,163
短期借入金	71,352	77,342
リース債務	15,851	15,400
未払法人税等	24,493	7,573
賞与引当金	12,961	20,852
その他	406,131	375,674
流動負債合計	588,679	533,005
固定負債		
長期借入金	122,035	248,207
リース債務	17,320	13,629
退職給付に係る負債	99,335	80,963
役員退職慰労引当金	8,906	8,906
長期預り敷金	619,084	619,034
再評価に係る繰延税金負債	1,082,196	1,082,196
その他	8,579	8,958
固定負債合計	1,957,457	2,061,895
負債合計	2,546,136	2,594,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,500	1,004,500
利益剰余金	252,428	237,771
自己株式	△8,561	△8,561
株主資本合計	1,248,367	1,233,710
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	660	1,432
土地再評価差額金	2,452,083	2,452,083
その他の包括利益累計額合計	2,452,744	2,453,516
純資産合計	3,701,111	3,687,226
負債純資産合計	6,247,247	6,282,126

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	401,488	260,405
売上原価	211,531	86,176
売上総利益	189,957	174,229
販売費及び一般管理費	167,801	145,902
営業利益	22,155	28,326
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,169	4,313
持分法による投資利益	4,961	3,147
その他	262	1,526
営業外収益合計	7,393	8,987
営業外費用		
支払利息	391	405
その他	160	132
営業外費用合計	551	538
経常利益	28,997	36,775
特別損失		
臨時休業による損失	—	43,694
特別損失合計	—	43,694
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	28,997	△6,919
法人税、住民税及び事業税	11,177	6,339
法人税等調整額	△2,665	1,398
法人税等合計	8,512	7,737
四半期純利益又は四半期純損失(△)	20,485	△14,657
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	20,485	△14,657

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	20,485	△14,657
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△427	771
その他の包括利益合計	△427	771
四半期包括利益	20,058	△13,885
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20,058	△13,885

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	143,055	143,175	93,692	19,615	399,538	1,949	401,488
セグメント間の内部売上高又は振替高	13	17,604	—	—	17,617	—	17,617
計	143,069	160,779	93,692	19,615	417,156	1,949	419,105
セグメント利益又は損失(△)	△7,738	85,285	24,607	1,907	104,062	608	104,670

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、著作権事業その他であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	104,062
「その他」の区分の利益	608
セグメント間取引消去	△25
全社費用(注)	△82,488
四半期連結損益計算書の営業利益	22,155

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。4. 報告セグメントごとの資産に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	21,433	142,705	84,549	10,866	259,555	849	260,405
セグメント間の内部売上高又は振替高	102	17,604	—	—	17,706	—	17,706
計	21,536	160,309	84,549	10,866	277,262	849	278,111
セグメント利益又は損失(△)	△15,224	87,608	29,094	1,687	103,164	△84	103,080

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、著作権事業その他であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	103,164
「その他」の区分の利益	△84
セグメント間取引消去	124
全社費用(注)	△74,878
四半期連結損益計算書の営業利益	28,326

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。4. 報告セグメントごとの資産に関する情報
該当事項はありません。